



講演会「空技廠と台湾少年工」

10月29日(土)講堂において、「日台高座友の会」が主催する講演会「空技廠と台湾少年工」を開催しました。

講師は、大東亜戦争中、追浜にあった日本海軍航空技術廠（通称 空技廠）で勤務された台湾在住の東俊賢（とう・しゅんけん 92歳）氏です。東氏は中学時代に高座海軍工廠（神奈川県大和市、座間市）の募集に応募して昭和44年5月に来日、追浜の海軍空技廠に派遣され、そこで終戦を迎えて帰台しました。台湾では教員となりましたが、科学技術への夢を捨てられず再度来日して電子工学を学び、帰国後電子部品会社を創業された方です。

少年工の応募に当たっての父親との確執、敵潜水艦の脅威の中での日本への航海、空技廠では溶接工として特攻機「桜花」ロケット戦闘機「秋水」の組立や終戦間近の悪化する生活環境、特攻隊員との交流などについて話されました。休日には、鎌倉や江の島見学の他、記念艦三笠にも来られており、写真を示しながら懐かしんでおられました。また、空技廠時代に交流のあった東海道新幹線の設計者・二木氏やソニー創業者の盛田氏などが戦後日本の復興に多大な貢献をされた事も話され、科学技術の重要性とともに台湾と日本の友好関係の重要性を話されました。

主催団体関係者以外にも横須賀の郷土史家など約150名が参加され、ご高齢のために対談形式の講演でしたが、経験談でもあり説得力があり、皆さん熱心に聴き入っておられました。

なお、「日台高座友の会」は大東亜戦争中軍用機工場「高座工廠」（座間市）で勤務した台湾人の少年工等との交流が30年に及ぶ団体です。今年は空技廠開設90年、日台友情50周年の節目の年でもあり、忘れられつつある歴史を振り返る事を趣旨として開催されました。

